

P2-0377

リハビリテーション特別研修会活動報告

伊東 孝洋

公益社団法人愛媛県理学療法士会

key words 啓発活動・理学療法週間事業・介護予防

【目的】

愛媛県理学療法士会(以下、本会)は昭和46年に会員数6名で発足し、昭和48年よりリハビリテーションの啓発を目的として「リハビリテーション特別研修会(以下、リハ特)」を開催している。平成26年度で第42回の開催に至る「リハ特」の活動について報告する。

【活動報告】

「リハ特」は、理学療法士をはじめ医師・作業療法士・言語聴覚士・看護師などの医療・福祉関係職種、各種養成校の学生を対象にリハビリテーションの啓発を目的として、第1回を昭和48年9月30日に愛媛県医師会館において開催した。以降、毎年1回の開催を継続している。昭和57年度第10回より理学療法週間事業として、平成22年度第38回からは、医療・福祉関係職種以外の地域住民へ広くリハビリテーションを啓発することを目的に「市民公開講座」として開催した。平成25年度第41回より、広く地域住民へ啓発するために県庁所在地から地域展開し、県内3地域(東予・中予・南予地方)を回る開催とした。当該年は東予地方の西条市、平成26年度第42回は南予地方で最南端の町である愛南町で開催した。内容は介護予防の講演や体力測定、体操指導等を実施し、より地域住民が興味関心を持つ内容を加味して実施した。

【考察】

「リハ特」の開催により、県内の医療・福祉職種に対するリハビリテーションの普及・啓発に大きな役割を果たしてきた。今後は県内3地域で順次開催することにより、県内全域においてリハビリテーション及び理学療法(士)の認知度の向上、普及・啓発を図っていきたいと考えている。また開催地の会員に対して、「リハ特」の企画・運営を通じた士会活動への参加機会を設けることで、本会会員間の連携力を強化し、組織力向上に繋げていきたいと考えている。

【結論】

愛媛県におけるリハビリテーションの普及・啓発目的の「リハ特」は42回の長期に渡る継続した事業であり、今後も開催を継続していきたいと考えている。